

国のスクリーニング体制の中での一つの弱点と思われるので、今後関係方面と協力し、改善する必要がある。

次にスクリーニングを行なっているおりの検体処理後の情報処理、採血した医師への通信のためにコンピューターを導入する所が増加しつつある。諸外国では、スクリーニングを行なっている、正常者には結果を知らせていないが、わが国では、全例について報告を行なう習慣がある。このために、検体数の多い所でコンピューター導入が考えられているが、これに伴う問題もあり、当研究班としては、この問題についての小委員会をつくり検討を行なうこととなった。

スクリーニングを行なう上で、最も重要な事は検査の正確さである。このために一昨年より、スクリーニングの精度管理が実施されている。我々は、実際の精度管理実施機関である日本公衆衛生協会に協力し、精度管理の研究を行なっている。このシステムに関しても、成瀬・大浦を中心として検討が続けられており、今後の発展が期待される。

精度管理の一部として、スクリーニングで発見もれの症例の有無の追究も重要である。当研究グループ員は、各地域で、代謝異常の研究の中心的存在であるので、今後外来その他で、前記の5疾患の患者が発見された場合、スクリーニングで発見されていたか否かについて調査することとなっている。

次に現在の代謝異常スクリーニング用の採血用紙については、クレチン症のスクリーニングの導入に伴ない、印刷様式の変更が必要となってくる。この問題については、当研究班の中でも検討中であるが、できるだけ早くクレチン症スクリーニング研究班、スクリーニングを実施している技術者等との打合わせが必要と思われる。

## ガスリー法実施上の問題点

日本母性保護医協会

森	山	豊		
五	味	淵	政	人
皆	川	進		
○	黒	島	淳	子

はじめに：先天代謝異常スクリーニング、ガスリー法は、検査に要する費用が公費負担となったことから、全国的な普及を見ているが、その実施にあたり、採血方法、用紙の郵送・結果の伝達・精密検査・治療、さらに、これから発生すると思われる医療事故等に関し、当協会全国支部及び産科医療施設に対し、アンケート調査をしたので報告する。

調査目的：実際の実施にあたり、微量の検体で、より確実な結果を得、全新生児を対象に、もれ

なく早期発見、早期治療を行う。事故の発生は最小限にいとめるための問題点を探究し、今後の改良に努めることを目的とした。

調査方法： 日本母性保護医協会、全国47支部の支部長、先天異常担当者等実施医療施設の病院2施設、診療所3施設、計329に対し、アンケートを依頼し、その結果について集計を行った。

調査結果： アンケート回答率は、支部長及び支部担当者から61.7%、病院から68.0%、診療所から78.0%、計70.5%。ガスリー法実施開始時期は昭和52年6月以降がもっとも多い。新生児の採血時期は、生後5～7日に行われ、採血部位は足趾外縁部、採血方法はランセットで行うが多い。各支部に検査センターを有するか、に対して4支部が無い、他県に依頼、治療施設は3支部が無い。依頼施設も不明が3支部となっていた。再採血、陽性者への連絡は採血医療施設が行い、精検者の採血は治療施設が担当している支部が多い。アンケート集計によるフェニールケトン尿症は11名、メープルシロップ尿症2名、ホモシスチン尿症7名、ヒスチジン血症36名、ガラクトース血症1名 計57名であった。

考察： 先天代謝異常ガスリー法は施設外分娩、低所得者層の新生児に対し、もれなく行われ、検査センター、治療施設の拡充と再採血、精検などに際し、連絡方法の徹底、一次治療後の教育、長期治療に関し、今後の検討、行政指導が望まれる。

## 代謝異常マス・スクリーニング法の改良

国立武蔵療養所神経センター診断研究部

成 瀬 浩

石 井 澄 和

鶴 田 恵 美 子

味ノ素中央研究所

鈴 木 直 雄

名古屋市衛生研究所

藤 村 有 信

### イ) アミノ酸微量定量法の開発

(1) ガスリーの考案したBIA法(Bacterial Inhibition Assay)は、極めてすぐれた方法であるが、熟練した技術者を必要とし、自動化は困難である。そこでわれわれは、自動化の可能な方法として、乳酸菌法によるアミノ酸の超微量定量法の研究を行って来た。Phe、Tyr、Hisに関しては、既に120℃・3分間加熱した3mmディスク一枚で定量が可能になった。今年度は、未加熱の濾紙上血液を使用しうる方法の開発と、Leu Met、の定量法の開発を行った。未加熱濾紙上血液を用いるために、乳酸生成程度を測定する、電位差測定法を採用した。Phe、Tyr、Hisに関しては、未処理の3mmディスク1枚で充分定量が可能になった。Leu、Md、に関しては、尚再現

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

はじめに:先天代謝異常スクリーニング、ガスリー法は、検査に要する費用が公費負担となったことから、全国的な普及を見ているが、その実施にあたり、採血方法、濾紙の郵送・結果の伝達・精密検査・治療.さらに、これから発生すると思われる医療事故等に関し、当協会全国支部及び産科医療施設に対しアンケート調査をしたので報告する。